

2050年のカーボンニュートラル実現に向けて世界的に動きが加速しています。日本を含めた120カ国以上がその実現に向けた決意表明を行い、政府と民間企業が一体となった取り組みが求められるなかで、今までの延長線上の発想では対応しきれない課題が現れ、企業は新しい事業モデルのあり方が問われています。技術、コスト、自然環境、変化する社会の関心、国や地域のルールなどの課題に対処しながら、脱炭素化や循環型社会システムの構築に向けた取り組みをどう進めていくのか。2050年のカーボンニュートラルへの向き合い方が、企業価値に直結すると言っても過言ではない時代が到来しています。

今号では、資源エネルギー、環境、電力などの有識者から、脱炭素社会の実現に向けた有益な寄稿を頂きました。またJOIでは、脱炭素化時代における電力インフラプロジェクトファイナンスや環境に配慮したサプライチェーンのガバナンスなど、脱炭素に関連したテーマを実務にまで落とし込んだ企業研修やセミナー(有料)のサービスも提供しております。ぜひ、ご利用下さい。

常務理事 田丸伸介

## 海外投融資

Vol.31 No.2 (通巻182号)  
2022年3月25日発行

発行  
一般財団法人 海外投融資情報財団

発行人  
長田 薫  
〒102-0073  
東京都千代田区九段北二丁目  
3番6号 九段北二丁目ビル  
TEL. 03-5210-3311(代)  
URL. www.joi.or.jp

制作協力  
(株)エディポック

\*本誌に掲載されている記事の内容や意見は、海外投融資情報財団の公式見解を示すものではありません。

●禁 無断転載

All rights reserved. No part of this magazine may be reproduced in any form or in any means without written permission from the publisher.  
©Japan Institute for Overseas Investment Printed in Japan



## 九段だより 海外出張でのお楽しみ：ランチ

コロナ禍に伴い海外との往来への厳しい制限が続いているなか、かつては当たり前だった海外出張がお預けとなり、髀肉の嘆をかこっていらっしゃる読者も少なくないのではなからうか。

海外出張へある種の郷愁を感じるなか、今回は数ある思い出の中から、多忙な仕事の合間の活力の源、思い出のランチメニューのいくつかを、僭越ながら筆者の独断と偏見に基づきご紹介させていただく。海外出張再開の際の参考としていただければ幸いです。

### ・ラグマン (カザフスタン)

カザフスタンの首都ヌルスルタン(旧アスタナ)は、最も寒さの厳しい首都のひとつとして知られ、最低気温はマイナス50度前後となることもある由。筆者が冬季に往訪した際も気温はマイナス20度を下回り、その寒さに驚いたものだが、そうしたなかで、羊肉と野菜を煮込んだ赤いスープの麺料理ラグマンに、身体の芯まで温めてもらった幸せは忘れがたい。ラグマンの麺は、学校給食のソフト麺並みにコシの無い太麺だが、コシの無い分、羊肉の出汁が効いたスープが絶妙に絡み、その味は逸品である。野菜も豊富にとれ、前夜のウォッカの酔いを駆逐する副次的な効果もあるお薦めのメニューである。



ラグマン (出所：外務省中央アジア・コーカサス室twitter”中央アジア・コーカサスとゆかいな仲間たち”@CentralAsiaplsJ)

### ・バクテー (肉骨茶)(シンガポール)

酷寒の地から一転、常夏の国シンガポールでの思い出はバクテー。豚バラ肉を徹底的に煮込んだスープを、醤油(のようなもの)とご飯と混ぜ合わせて食べるのは、やや上品さには欠けるかもしれないが、ずしんと来るスパイシーな味わいと、風味豊かな豚バラ肉の織り成すハーモニーは絶品。なお、日本でも、輸入食品を扱う某チェーン店などでバクテーの素が販売されており、こちらをレシピ通りに調理すると、それなりのクオリティのバクテーが簡単に楽しめる。実はわが家の人気メニューのひとつ。興味ある方はぜひお試しを。

### ・イカマグロ納豆丼

ジャカルタの日本料理店で供されていた、イカ、マグロと納豆をのせた海鮮丼。以外なコラボだが、絶妙な取り合わせに感動。当時、頻繁に訪尼していた筆者は、訪問の都度食することとしていた。ネットで調べたところ、同様のメニューを供するお店が、遠隔地ではあるが国内に確認できた。だが、まだまだ、レアな存在。いつの日か、どこかで再びイカマグロ納豆丼を頂ける日を夢見つつ、わが家の食事が手巻き寿司の日には、イカ、マグロ、納豆を巻いた手巻き寿司を片手に、懐かしいインドネシアに思いを致すところである。

専務理事 長田 薫